

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	いるか			
○保護者評価実施期間	令和7年11月1日 ~ 令和7年12月27日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数)	20名
○従業者評価実施期間	令和7年11月15日 ~ 令和7年12月10日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年12月20日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	各児童のその日のコンディションや体調などに合わせて、療育の内容を設定し、個々の特性に合わせた療育を行います。	本人の意思を尊重し、楽しみながらプログラムに参加できるよう配慮している。支援計画に沿いながらも、その日の各児童の機嫌や遊びに合わせて療育を行うようしている為、自然と遊びの中でいろいろなスキルが身についている。	5領域全域の療育内容を豊富にし、多様な子どもの特性の把握やニーズに合わせた支援が行えるよう、研修などに積極的に参加し、指導員の資質向上を図っていきたい。
2	保護者と日々の様子などを共有し、子どもたちの成長を共に喜んだり、悩みを共有し、指導員と保護者が近い存在で支援します。	保護者会を2~3ヶ月に1回開催し、保護者同士の交流の場を設けた。同じ悩みを持つ親がいたり、同じような特性をもつ子どもたちがいることを知ってもらういい機会となった。その際に今の困り事などを相談してもらったり、いるかでの様子や対応の仕方をお伝えさせて頂き、共通理解を深められた。	定期的な保護者会の開催ができるよう、参加を募っていきたい。また、保護者同士や兄弟同士の交流が深められるプログラムを考察していきたい。年長児の保護者とは就学に向けた相談会なども開催し、環境の変化への不安を少しでも軽減していきたい。
3	多方面からの支援と途切れのない支援を行えるよう、各関係機関との連携を図り、しっかり子どもや保護者をサポートしていきます。	各児童が通園している幼稚園や保育園の園長先生や担任の先生と連携を図りながら、児童への支援の方法の共通理解や情報の共有を行っている。また幼稚園や保育園での児童の様子を見学することで、本人の困りごとを見つけ、支援へのヒントを得たり、支援計画作成の材料としている。	児童が就学する小学校や特別支援学校、また放課後等デイサービスなどとの連携を図り、保護者や本人の環境の変化への負担を軽減できるようにしていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門支援員が専門的な支援を行っているが、他の業務や専門以外の療育も担っている為、専門性が弱い。	従業員の業務の量や時間の負担が大きいと考えられる。	1人1人スキルを高め、専門支援員がより専門性を追求できるようサポートしていき、また専門支援員についても外部の研修に参加してもらい、その専門性を高めていってもらう。
2	地域との連携や繋がりがまだ薄く、事業所個体での活動が多い。	年に数回のイベントを通してしか関わりがなく、まだまだ事業所として地域に浸透していない。	イベントを増やしたり、地域への外出を増やし、関わる機会を作っていきたい。地域の保育園や幼稚園、児童館などとも交流できる機会をつくっていきたい。
3			